



令和2年度西尾市一般会計歳入歳出決算の認定について原案反対討論

議席番号 29 番 鈴木 規子

私は、令和2年度西尾市一般会計歳入歳出決算の認定について、原案反対の立場で討論いたします。その理由について歳入歳出別に現状の問題点を述べ、今後の課題と考える点を挙げて討論とします。

歳入については、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって極めて特異な形となりました。

歳入総額は、803億1980万3千円と前年度の583億7000万円から137%の増となりました。これは、国庫支出金にコロナ対策としての特別定額給付金172億円等が加わったことによって、前年の260億円から612億円に増加したことが大きな要因です。依存財源のうちの構成比割合は、前年度の10.5%から32.4%と大幅に増加しました。

コロナ禍の影響は令和3年度は、さらに続きます。しかし、大災害ともいえる非常時であれども国の財政規律なきがごとき財政出動は、近い将来の国の増税と地方への締め付けはまぬがれないものと思います。その意味で、今般の各種補助金や交付金も国が負担してくれるから良いというものではなく、真に支援を必要とする人々をどう捉え、どう守るのかについて、私たちは改めて考える必要があると思います。

近年、幼児保育無料化や「35人学級を今後5年間で実現する」など、国の掛け声による制度改正は増大する一方です。けれども、国は、関係費用を全額負担するわけではなく、市町の一般財源や起債の負担は大きく、基礎自治体に重くのしかかっています。

本市でも、小中学校の教室数の不足は深刻です。今議会では、学校施設の国庫負担率を3分の1から2分の1に戻すよう、国に意見書を提出することになりましたが、遅きに失します。市町村はもっと抗議の声を大きくすべきと考えます。「学級数を増やせというなら教員の数を増やせ」と、国にモノ申すべきであります。

さて、法人市民税の歳入額は、前年の16億円から3割減の11億円でしたが、個人市民税収は4億8500万円の増の116億円に、そして、固定資産税収が5億9400万円増の158億7000万円となりました。5億円の減に対し、10億8000万円の増で差引5億8000万円の増額となったことに助けられた形となりました。

しかし、コロナ禍での景気減退により、令和3年度については、法人税はもとより、個人市民税の落ち込みも懸念されます。いうまでもなく、合併算定替えの特例は令和3年度で終了となります。

行財政改革の観点では、大口の改革策、まとまった金額の削減策は年々、難しくなってきたといえましょう。例えば、下水道料金の引き上げは先送りされていますが、私は、

20 年以上据え置かれていた値上げについては容認せざるを得ないと考えます。使用料金を住民に広く、しかし、薄く負担していただくことによって一般財源からの繰り出し額を減らすことができます。その分を市民サービスに廻すことができることをキチンと市民に訴えて、理解を求めることが重要です。

これからの市政運営は、説明責任を果たしていく中で、住民にも財政難を判ってもらおう不断の努力が不可欠と考えます。これは、執行部だけでなく、議会の側にも言えることではないでしょうか。

本市の財政力は、西三河最下位から脱することはできていません。「あれかこれか…」の選択を本気で行う強い姿勢が市長に求められ、議会にも「おねだり要望」ではなく、施策の監視と説明責任が求められていると考えます。まともな行政運営とするには、中村市長自身が施策のまっとうな取捨選択をするしかない。この1 点に尽きると私は思います。

では、歳出に移ります。

総括として、開始から5 年となっている西尾市方式 PFI の 08 事業、160 施設の維持管理業務について、当初契約時と異なる点を問題として指摘してまいります。

私は、決算の度にこれらを定点観測してきましたので、これまでの経過と現在の課題を述べます。

1 点目は、契約時の説明に反してまったく事業効果が見えず、トータルコストは削減どころか、逆に包括マネージメント費が上乗せされる分だけ高額になるという現実です。

前榊原市長、増山副市長は 160 施設 3 億円余をまとめて管理するスケールメリットによって直営の時より 1,300 万円安くなる、削減効果があると豪語していましたが、初年度の結果は 77 万円の削減しか出来ず、辻村工業と(株)サンエイに支払う包括マネージメント費 1425 万 6000 円の増加分を相殺できるスケールメリットは生み出せなかった事実から始まっており、今も続いていると思われまます。

2 点目は、事業の適正性妥当性が判断できない点です。

個別の施設毎の事業費、受託下請け業者名、内容の変更などが依然として明らかにされないまま、合理的な説明はなく、「個別業務の金額の割り振りはエリアプランが行ったもので、積算根拠資料の提示はない」との答弁が続いています。このため、個々の事業の適正性妥当性を議会が判断するのは不可能です。08 事業は、何でも業者が秘密にしてくれと言え、それが通る「ブラックボックス」ということに他なりません。

西尾市方式 PFI では、二言目には民間と対等の契約であることが声高に言われ、隠れ蓑にされて事業の詳細が明らかにされていません。しかし、原資が税金である以上、使途の公表は市の責務であり、受託者 SPC は公共事業であることを正しく認識しなければ許されずであります。

どこまでも、詳細は公開できないというなら、西尾市方式 PFI の包括マネージメントは、そもそも、自治体には馴染まない事業であると言わざるを得ません。

3点目は、契約当時に説明された市内業者に配慮、優先するというものが偽りだった点です。

契約1年目、下請け80社のうち市内業者は直営時代の70社から26社となり7割の減でしたが、その後も市内比率は上昇せず、今決算では、全体で87社のうち市内業者は24社に減少し、市外業者は63社となりました。西尾市方式は、市内業者を多く入れる地元優先のスキームだと胸を張った前市長の責任は大きいのであります。

さて、今決算の08全体の事業費はといえば、全体では、3億2978万円となりました。前年の3億1650万円からは1327万円の増加です。ここには、消費税2%アップの半年分だけでなく、物価スライドによる値上げ分として、運営費全般で3.57%、339万円、清掃費全般が5.68%、450万円、合計790万円が含まれました。

また、08事業以外ですが、エリアプランの維持組成費についても、同様の物価スライド値上げ分が年間202万円の増額と算出されています。通常、物価スライドは算定された年からカウントされるものと思いますが、本市では協議の結果、過去に遡及し、まるまる2年分が今決算で支払われたとのこと。ビックリです。

ご承知のように、維持組成費については、市民からも議会からも「事業が行われておらず、金融機関からの融資も受けていないのだから、利子を含んでいる維持組成費は減額されるべき」と声が再三上がっていたにも拘わらず、2年分もの値上げが行われていたとは納得し兼ねます。そもそもは、通常、契約書に記載される「物価スライドに係る値上げの時期」が明記されていなかったためとのことですが、遡って値上げすることは、市民の理解は得られないと思います。

昨年、一昨年と、中村市長は事業の詳細が明らかにされないことに対して、「あってはならないことであり、業者とは改めて交渉する」と答弁していました。しかし、SPCとの交渉は、ままなりません。この3年、4年の間、08事業について何一つ満足に答弁できないことに、実は、現担当者は、どれほどの悔しさを感じていたことかと心中を思います。

「行政の継続性」は重んじられるとありますが、西尾市方式PFIについては、別です。改めて申し上げますが、本市の198億円の契約では、PFI事業に必須といわれているVFMが算出されておりません。中村市長は平成30年2月のPFI検証の結果、自身が「VFMが存在しない」と認定しています。

契約は締結されたとは言え、「事業実施による経費削減効果が算出されていない」この事実は見過ごすことのできない欠陥です。

そして、その他も上げればキリがありませんが、例示とした160施設の管理については、先に述べた通り、契約時との乖離は余りにも大きいと言わざるを得ません。

今決算には、旧一色支所棟の仮囲い撤去のための増加費用の和解金として8200万円

IV

が今決算には計上されています。相手方の歩み寄りを期待した市長は、今や、忸怩たる思いであります。

PFI 事業見直しについて、2度目の民意を得た市長ならば、臆することはありません。喫緊の課題である財政の健全化のためには、西尾市方式PFIによる負担を取り除くことです。全国初の西尾市方式は制度設計が未成熟だったのです。契約解除に踏み込み、仮に、損害賠償が生じて一時の負担が多くなったとしても、このまま手をこまねいて子や孫に巨額のツケを回すことは避けるべきと考えます。何よりも、VFM がないということは、経費削減効果が見込まれていないということなのですから。

気をつけるポイントは、ただひとつ。根拠のない要求、スジと通らない要求には応じない、この1点です。

さらに、法的根拠に基づく市の対応をもってしても、増加費用請求のようにSPC側の要求が市民の利益を脅かす場合には、市長には断固たる態度で臨まれるよう、改めて、求めます。そうでなければ、市民には到底、理解していただけますまい。

以上、満場の議員諸君の賛同を求め、令和2年度一般会計決算について、私の原案反対討論といたします。